研修報告書No. 1

議員名（　髙　瀬　　由　子　）

1　期　日　　２０２４年1月２３日

2　場　所　　岡山県奈義町

3　テーマ　　「子育て支援政策」

情報企画課副参事　小坂昌平 氏

4　視察研修事項

（1）　少子化対策の意義

・奈義町の抱える最大の課題は「人口減少」
・若者が定住し、子供が生まれ、高齢者がいつまでも元気に活躍する街へのチャレンジ　少子化対策は最大の高齢者福祉
・奈義町で暮らす全ての人、これから生まれてくる子供達が幸せな笑顔で暮らしていけるような明るい未来を創る

（2）　奈義町の子育て支援施策

単独事業費約２億円(一般会計約４５億円の約４～５％)

１．　切れ目のない経済的支援

・特定不妊治療を受けた方に県の助成を引いた額の１/２以内で年額２０万円助成
・保育料が国基準の約半額　第２子はその半額　第３子以降は無料
・在宅育児をする保護者に毎月１５０００円の支援金
・小中学校の給食費半額負担
・小中学校の教育教材費無料化
・中学３年生迄の子供を育てるひとり親に年額５４０００円を支給　第２子以降は一人２７０００円加算
・高校生までの医療費無料
・高校生への修学支援年額２４万円の支援金
・大学生に町独自の奨学育英金(町への定住で全額返済免除)
・おたふくかぜやインフルエンザ等の予防接種も助成

２．　メンタル的支援・機運醸成～産前産後のケア

・保健師による母子手帳交付時の面談
・きずなメールによる情報配信
・保健師による新生児全戸訪問

・母乳相談、産後ヘルパー
・産前産後アプローチの更なる推進　心理士によるカウンセリング、大阪大学との連携による子育て適応包括支援尺度（CPRA）を活用した個別支援、父親の子育て力アップ事業

３．　メンタル的支援・機運醸成～なぎチャイルドホーム
・子育ての心の支え　子育てアドバイザー
・一時保育「すまいる」
・週４で通え、親同士で協力する保育活動「自主保育たけの子」
・助産師や心理士による各種イベントや座談会

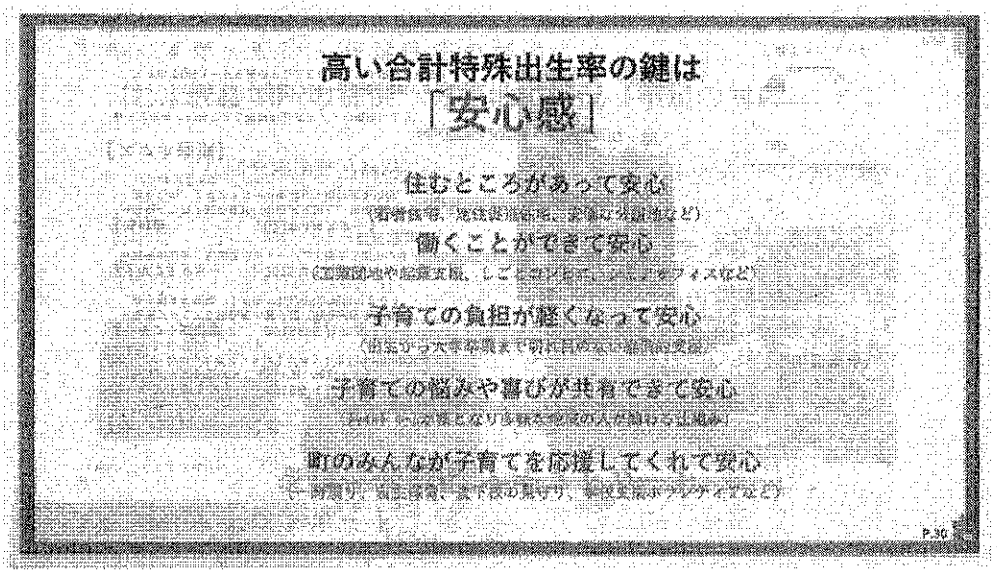
４．　メンタル的支援・機運醸成～子育て応援宣言の発表
・平成２４年「奈義町子育て応援宣言」を発表
　町民へ安心感と心強さを

５．　地域課題の解決
・「しごとコンビニ」事業
子育てしながらでも就労できる仕組みや環境の整備

・奈義しごとえん　高齢者が子育てママの悩みに共感、
　ちょっとの需要と供給、子育てママとの交流で高齢者も元気に

・子供の見守り「こもりん」
　大人が交代制で子供たちを見られる仕組み
・企業誘致　働く仕事の提供
・賃貸住宅の整備　「民間賃貸住宅の建設」を町が助成、
　子育て層の声に対応した若者向け賃貸住宅の建設
・新築住宅普及促進事業補助　町内新築２０万円、
　地元業者施工３０万円、家族加算５０万円　計１００万円

（３）　支援事業の成果
・奈義町の子育て世帯は、半数以上が子供３人以上の多子世帯
・令和元年　合計特殊出生率２．９５を記録
・高い合計特殊出生率の鍵は「安心感」



５　矢板市への展望

奈義町では議会の議決により、平成２４年「子育て応援宣言」、令和５年度「こどもまんなか応援サポーター宣言」を行い、子育て支援に重点を置いている。更に「少子化対策は最大の高齢者福祉」として相乗効果を図った施策を推進し、合計特殊出生率２．９５を達成している。

矢板市でも前遠藤市長の時代に「子育て環境日本一！」を掲げ、いち早く細かな支援を充実させたため「１８歳までなら矢板市」この口コミがママ友の間で広がり、「暮らしのびのび定住促進」施策との相乗効果で子育て世帯や母子家庭の流入増加に繋がった経緯がある。県内初「こどもまんなか応援サポーター宣言」も行い、「防災まつり」「未来まつり」等を開催し「ネウボラ」施策等で更に子育て支援に注力し、真摯に取り組んでくださっているので、周知方法の改善を図るべきだ。

全庁横断的な施策とその周知について再三、質問・要望してきた。「こどもまんなか」ブックには見やすいインデックスとこれまでになかった「定住促進事業」を加えるなど、各課連携し、子育て施策がＱＲコード入りでわかりやすく案内されている。自治体間競争に勝てるよう、更なる施策の充実とその広報、周知を訴えていきたい。

特に来年度から開館する「泉きずな館」は奈義町の「なぎチャイルドホーム」や、昨年度総務厚生常任委員会で視察した留寿都村の「るすつ子どもセンターぽっけ」と同様、多世代交流が期待できる施設である。３月定例会で「泉きずな館における子育て支援センター」の取組について質問させていただいた。「地域の農業団体との交流事業や高齢者向けの泉常設型サロンの利用者との様々な季節のイベント等の多世代交流事業を計画中」との答弁をいただいた。事業参加や周知等で協力して「子供達にもシルバーにも住みやすい生きがいのある街」を築いていきたい。

また「まちづくりはひとづくり」であることを踏まえ、格差社会にも対応すべきである。数年前、それまでの貸与型でなく支給型の学業奨学金やスポーツ奨学金について提案させていただいた。奈義町では、高校生への修学支援として年額２４万円の支援金、大学生に町独自の奨学育英金(町への定住で全額返済免除)がある。将来を担う子供達への支援を更に拡充していくことが、子供達にとってもまちにとっても「輝ける未来」を築くことになるであろう。

研修報告書No. 2

議員名（　高　瀬　　由　子　）

1　期　日　　２０２４年１月２４日

2　場　所　　広島県尾道市

3　視察テーマ　　「尾道市空き家再生プロジェクト」

NPO法人尾道空き家再生プロジェクト

専務理事　新田悟朗 氏

4　視察研修事項

（1）　「空き家再生プロジェクト」のミッション
空き家の再生事業を通した古い町並みの保全と次世代のコミュニケーションの確立

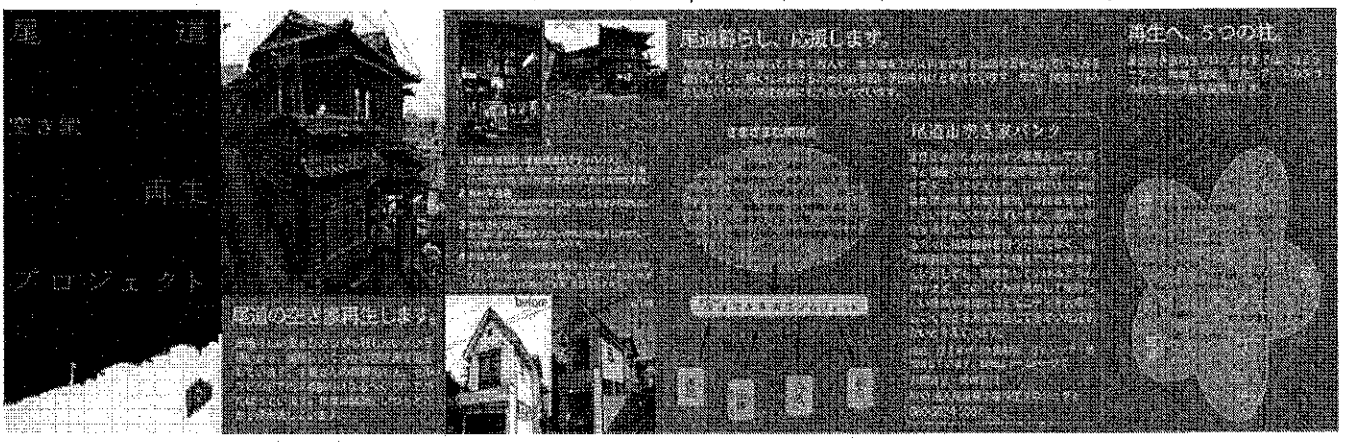
（2）　活動地域の概要

- 坂の町尾張の独特の景観は、映画やCMをはじめとする様々なメディアで全国、全世界に紹介され、尾張の代名詞
- 車中心の社会への変化や核家族化、少子高齢化による中心市街地の空洞化といった現代の社会問題を多く抱えているエリア
- 車の入らない斜面地や路地裏などの住宅密集地に増え続ける空き家問題が深刻化
- ハイカラな洋館付き住宅や旅館、長屋等様々な時代の建築が、斜面にへばりつくように密集して立ち並んだ「建物の博物館」
- 坂の町には３００を超える空き家が存在
- 駅から２キロという徒歩圏内に５００近い空き家
- 建て替えや新築不可能なロケーションにおいて現存する空き家をいかに上手く活用し、後世に伝えていくかが最重要課題

（3）　「再生へ５つの柱」

・空き家×建築	面白い尾張建築を再発見 ワークショップやDIYで再生
・空き家×環境	空き家の里親探し 防犯・防災面の向上
・空き家×コミュニティ	豊かな尾張暮らしを提案
・空き家×観光	空き家を使った観光スポット
・空き家×アート	空き家とアート

アーティスト・イン・レジデンス



（4）　主な活動

・尾張建築塾	町歩きや建物の内部見学 ワークショップ、公開工事
・尾張まちづくり発表会	学生の研究発表 各種活動の報告
・チャリティ蚤の市	坂を下り捨てに行く手間省き 使えるものの持ち帰り 売り上げは修復資金
・土嚢の会	不用品の運び出しや再生資材搬入 若い労力で解決
・空き地再生ピクニック	草むしりやごみ拾い後ピクニック
・空き家談議	多彩なゲストの体験談やヒント
・チャリティイベント	空き家再生の修復費用の捻出 各再生物件での様々なイベント
・AIR Onomachi との連携	国内外で活動する様々なジャンルの アーティストの招聘

（５）　活動の成果

２００７年から様々な空き家再生プロジェクトを展開

２０１３年　「第２７回人間力大賞」総務大臣奨励賞受賞

「あしたのまち・くらしづくり活動賞」総務大臣賞受賞

２０１４年　「第９回 JTB 交流文化賞」優秀賞受賞

２０１５年　「平成２６年度故郷づくり大賞」受賞

２０２１年　日本建築士会「第１１回まちづくり賞」大賞受賞

５　矢板市への展望

「尾道市空き家再生プロジェクト」とその実例を視察させていただき、成功の秘訣は「人とのつながり」「絆、輪の構築」であると痛感した。NPO 法人の理事たちの熱意が人を惹きつけ、コト、モノを結び付け、大きな原動力になる。企画者にとっても参加者にとっても生きがいづくり、絆づくりになり、それが「ひとづくり」「まちづくり」「故郷づくり」に繋がる素晴らしいプロジェクトである。

矢板市でも地域おこし協力隊や元地域おこし協力隊による空き家再生プロジェクトが行われている。コロナ禍や地震・自然災害は、「安心安全なまち」、消防、消防団や関係機関との連携による防災・支援対策が万全である矢板市にとっては、追い風となるだろう。日々ご献身ご尽力いただいている担当課や関係機関には深く感謝申し上げたい。

シェアオフィス SLOW WORK YAITA での「SLOW TALK YAITA」や「地域おこし隊による報告会」などに出席する度、市長も触れていた「よそ者、若者、馬鹿者がまちをつくる」ことを実感している。ある隊員は「自虐」という言葉を使用したが、よそから来た方々の方が、「矢板の良さ」をより認識しているようだ。

矢板の地域おこし隊が企画する行事に、他地区の地域おこし協力隊があんなに大勢参加してくださる事はかつてなかった。これは、現隊員の日頃の献身、努力、活動の賜物であり、この人脈が新たな発見、進化を生み出すことだろう。地域おこし協力隊の皆様が、矢板に住み続けられるような持続可能なまちでなかったら、移住者は増加しない。地域おこし協力隊の定住率の高さが、隊員募集時の人材・資質のレベル UP にも繋がるであろうから、定住の為の行政の更なる支援を提言したい。

「空き家」対策についても過去何度も一般質問させていただいている。特に街中の空き家を減少させる取り組みとして、「事業承継」指導と希望調査による早目のマッチングが有効であろう。

矢板市ふるさと支援センターTAKIBI が運営するシェアキッチンは、起業希望者が安価で借りることができる。矢板市商工会でも起業希望者への指導、助言、講習会を行っている。商工課でも農林課でも新規事業者への支援を行っている。「空き家改修補助金」もあり、市内に若者が起業するようになり、魅力的な店舗が増加している。

市内 3 高校生や市内外の若者たち、シルバーの皆さんにもこれらを

周知して、矢板に興味、関心を持っていただき、手厚い支援を継続することで、起業者、定住者が少しずつ増加し、「空き家」が再生され、尾道市のように「ひとづくり」「まちづくり」「故郷づくり」の良いサイクルが実現されていくことだろう。

研修報告書No. 3

議員名（　髙　瀬　　由　子　）

1　期　日　　２０２４年1月２５日

2　場　所　　岡山県井原市

3　視察テーマ　　「世界が認めた『美しい星空』の下での

まちづくり推進事業」

観光交流課長　藤岡健二 氏

4　視察研修事項

（1）　美星町と星との関わり

・「美しい星が見えるまち」として知られる美星町は、古くから住民が深く北辰(北極星を神と崇める)信仰

・鎌倉時代初期の承久年間には、流れ星が空中で 3 つに割れて落ちたとされる伝説(星尾降神伝説)

・１９８７年８月、美星水路観測所広場で「スターウォッチング星空の街側コンテスト」開催

・１９８８年1月、環境庁によって、美星町を含めて全国１０８の自治体が「星空の街・あおぞらの街」に選。

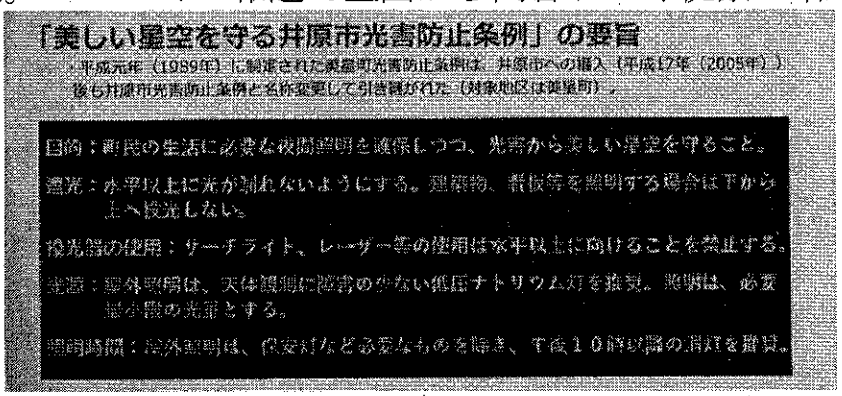
・１９９３年7月から美声天文台が一般公開

・近年は「天文王国おかやま」の拠点施設として受け入れ環境の充実

（2）　天体観測環境の保全の取組

・１９８８年8月、「星の降る夜‘８８」イベント開催時、役場職員とアマチュア天文家たちの星空談義の中で「アメリカのほしぞらを守る条例」より「ほしぞら条例」の要望

・１９８９年 11 月、「美しい星空を守る美星町光害防止条例」として日本初の制定。マスコミの報道で全国から問合わせや視察が増加


「美しい星空を守る井原市光害防止条例」の要旨

・平成元年（1989年）に制定された美星町光害防止条例は、井原市への編入（平成17年（2005年））後も井原市光害防止条例と名称変更して引継がれた。（対象地区は旧美星町）。

目的：町民の生活に必要な夜間照明を確保しつつ、光害から美しい星空を守ること。

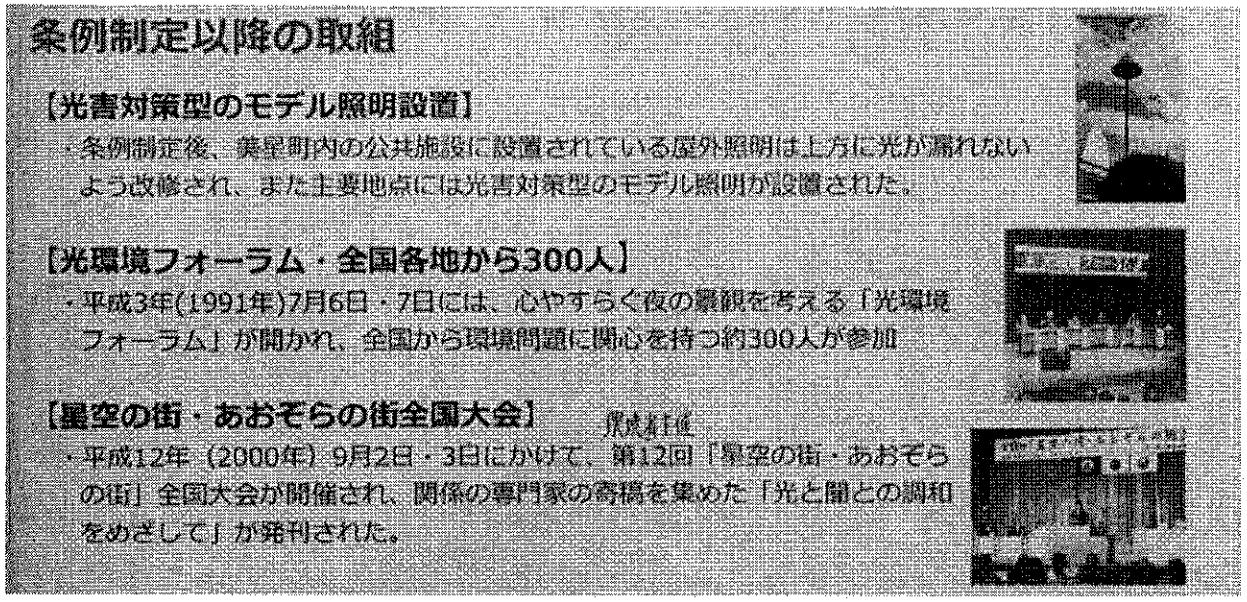
遮光：水平以上に光が漏れないようにする。建築物、看板等を照明する場合は下から上へ投光しない。

投光器の使用：サーチライト、レーザー等の使用は水平以上に向けることを禁止する。

光源：屋外照明は、天体観測に障害の少ない低圧ナトリウム灯を推奨。照明は、必要最小限の光源とする。

照明時間：屋外照明は、保安灯などの必要なものを除き、午後１０時以降の消灯を推奨。

・条例制定後、美星町内の公共施設に設置されている屋外照明改修、
　主要地点に光害対策型のモデル照明設置
・１９９１年７月、心安らぐ夜の景観を考える「光環境フォーラム」
　開催。全国各地から３００人参加
・２０００年９月、環境省主催の「第１２回星空の街・あおぞらの街」
　全国大会が開催、「光と闇の調和をめざして」を発行



（３）　光害の提言・星空保護の取組の再活性化
・「星空保護区」を目指し美声観光協会と連携
・２０１７年８月、美星町内で一般向け光害啓発講演会開催
・２０１８年３月、美星町観光協会が「STAR VIEWER PROJECT」
　立ち上げ
・２０１８年１２月、Dark Sky Japan の研究会開催
　「いかにして星空環境を守るか」をテーマに発表、議論
・２０１９年３月、井原市と美星町観光協会が協議し、「ダークスカイプレイス・プログラム」による認定を正式に目指すことを確認
・２０１９年３月、パナソニック社との連携、Dark Sky の基準に適合する照明器具の開発し、２０２０年１月、Dark Sky から国内初認証

美星町内での機運の盛り上げと環境整備
・２０１９年７月、町民向け光害対策セミナー開催
・２０１９年１１月、住民向けに「光害と星空に関するアンケート」
　実施
・２０２０年１月、啓発用のぼりやティッシュ作成し、啓発活動展開
　美星町観光協会がクラウドファンディング実施
　　目標金額の約３倍、５９２万２千円で達成
・２０２０年７月パナソニック者と市が共同でプレス発表
・２０２０年１０～１２月　防犯灯３８９基交換。
・２０２０年１２月、市議会定例会において「光害防止条例の一部改正案」可決

・２０２１年４月、Dark Sky International(アメリカ)へ認定申請
・２０２１年１１月、美星町「星空保護区コミュニティ部門」に認定
　星空保護区では日本で３番目、コミュニティ部門ではアジア初
　町民全員で星空を楽しむ観望会開催
・２０２１年１２月、子供達に宇宙の魅力や地球の環境を考える特別
　授業開催、「星空の街・あおぞらの街」全国大会の開催

（4）　保護区認定後の星空観光推進

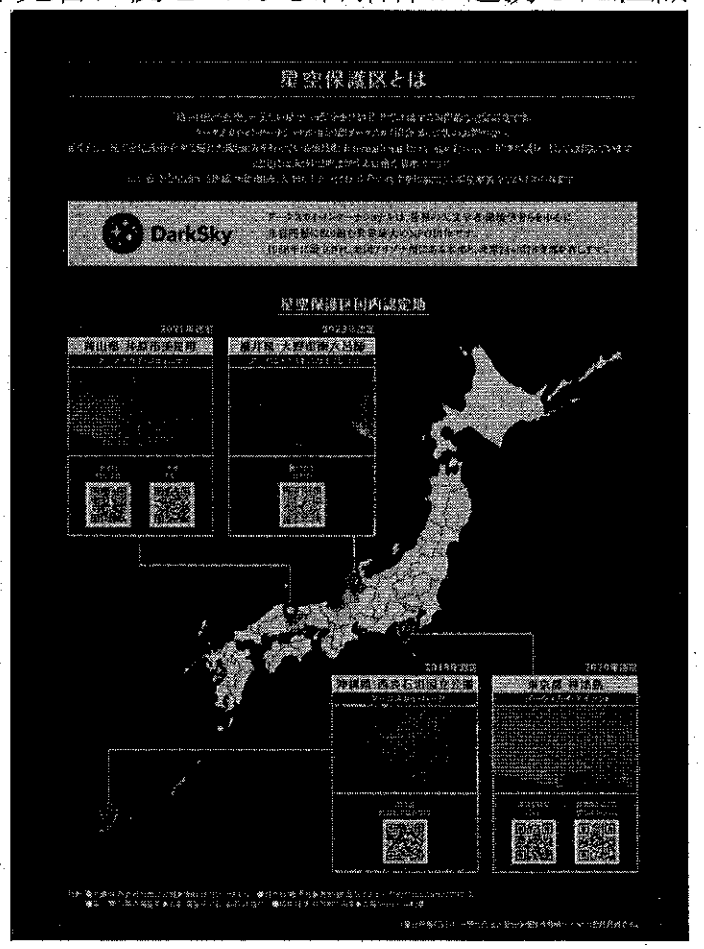
・星空保護区認定地看板設置
・日本航空との共創による「星降るレストラン」ツアー商品化
・美星町×JR 西日本×日本旅行による看板商品化プロジェクト
　（観光庁「看板商品創出事業」採択案件）
・倉敷市と福山駅から美星天文台まで「星空特等席」バスツアー実施
・ワーケーション事業の推進（拠点施設：星空ペンション・コメット）
・ツーリズム EXPO（インテックス大阪、東京ビッグサイト）へ出展
　簡易プラネタリウム設置
・地場産業の取組（星空×デニム商品化）星空を持ち歩く「美星デニム」

（5）　山積する課題

・平成の合併以降、18 年間で人口の３割減少
・宿泊や飲食など観光の受け皿が無い
・観光客が地域で消費する場所が無い
・星に詳しいガイドが少ない

（6）　今後の展望

星空保護区の理念を広く発信すべく、国内認定地等との連携促進
・国際ダークスカイ・ウィークで国内４認定地（西表石垣国立公園、
　東京都神津島、美星町、福井県大野市）が連携
・国内認定地の紹介パンフレット、ノベルティの共同制作
・国内認定地や光害に関心のある自治体が連携した組織の設立



5　矢板市への展望

関係機関との連携を深めながら、町民が一丸となってハードルの高い「星空保護区コミュニティ部門」にアジア初認定されるまでの経緯は、まるで映画のようである。（視察資料から年表を作成させていただいた）特に「天文王国おかやま」県や各種大手企業との連携が、約 4 万人の小さな市を国内外に効果的に発信させている。また子供達にも特別授業を開催するなど、人材育成、郷土愛醸成も怠らない。決して妥協しない首長以下職員達の熱意が点から線、面となって人脈を構築し、一石二鳥以上の成果を創出しており、「行政、議員の在り方」として学ぶべきところは多い。

矢板市においても「日本遺産」を通した広域連携や関係各課の尽力が、過去最高の観光入込数となって現れた。議員になってすぐに大手旅行会社へのアプローチを要望してきたが、一昨年からずっと東京の大手旅行会社のコースに矢板が入っている。社長自らがアンケート全てに目を通し、幅広い顧客を大切にする会社であるので大変有難い。

コロナ禍において「マイクロツーリズム」推進施策としてのクーポン発行、「ふるさと納税返礼品」の拡充、SLOW WORK YAITA での「SLOW TALK YAITA」や「ワーケーション」なども「矢板再発見」として功を奏している。矢板の素晴らしさを PR 発信していくことが、郷土愛醸成になり、帰郷意識の向上や関心人口、関係人口、交流人口、定住人口増加に繋がっていく。

井原市の今後の展望として「光害に関心のある自治体が連携した組織の設立」を構想中という。矢板市にも「星空サイト」キャンプ場を有する八方ヶ原の他にも塩田地区、豊田、山田地区など星空の美しい場所は多数ある。映画や動画の共同制作、現実的には画像提供などによる連携を推進することで新たな可能性が高まっていくはずである。

研修報告書No. 4

議員名（　髙　瀬　　由　子　）

1　期　日　　２０２４年２月１日

2　場　所　　埼玉県滑川町役場

3　視察テーマ　　「人口増加における有効な政策・要因」

総務政策課長　篠崎仁志 氏

「子育て支援（子ども医療費等）」

福祉課長　木村晴彦 氏

「子育て支援（給食無償化等）」

教育委員会事務局長　澄川淳 氏

4　視察研修事項

（1）　人口増加における有効な政策・要因

1．　滑川町の概要

人口（２０２４年１月１日現在）：１９７４５人

前年同月比　３４人増

世帯数：８３４３世帯　　前年同月比　１０８世帯増

面積：２９．６８㎢

2．　あゆみ

・１９７４年　国営武蔵丘陵森林公園が開園
・２０００年　エコミュージアムセンター開館
・２０１０年　月の輪小学校開校
・２０１１年　こども医療費の年齢拡大・給食費の無償化
・２０１２年　滑川町健康づくり行動宣言
・２０１６年　デマンド交通運行宣言
・２０２３年　谷津沼農業システムが日本農業遺産に認定

3．　過去１０年間の主要施策等

1）　２０１４年　町制施行３０周年記念式典及び記念事業
2）　２０１４年　町村会による総合行政システム共同化事業の導入
3）　２０１５年　幼稚園及び小・中学校空調設備等

4）　２０１５年　非核平和都市宣言
5）　２０１６年　デマンド交通スタート
6）　２０２０年　防災メール配信サービススタート
7）　２０２１年　滑川町公式 youtube チャンネル開設
8）　２０２２年　電子図書館の運用開始
9）　２０２３年　「比企丘陵の天水を利用した谷津沼農業システム」が日本農業遺産に認定
10）　２０２３年　スクールバス運行開始

４．　人口増加に有効に働いた政策・要因
・都心まで電車で約６０分という立地条件
・二つの駅周辺の区画整理事業による綺麗な街並み
・多くの住宅の供給
・子育て支援に対する高い評価
　１８歳までの子ども医療費無料化
　学校教育費無償化

５．　今後の主要施策
1）　健康づくり事業の推進
2）　子育て支援事業の推進
3）　コミュニティセンター建設事業
4）　福祉センター建設事業
5）　宮前小学校プール解体・体育館建設工事
6）　幼稚園園舎大規模改修事業
7）　町制施行４０周年記念事業

（２）　子育て支援内容
・１８歳までの子ども医療費無料化
・保育施設等の給食費無償化
・子育て応援金　出生時に子ども一人につき５０００円支給
・保育所等の整備　認可保育所　７施設
　認定こども園　１施設
　公立幼稚園　１施設

（３）　こども医療費無料化
・２００８年　中学校終了前の生徒までの医療費無料化
・２０１０年　近隣市町村の協定医療機関で現物支給
・２０１１年　高校終了前の生徒までの医療費無料化
・２０２２年　埼玉県内の医療機関で現物支給

（４）　給食費の無償化

１．　背景と経緯

・二ヶ所の土地区画整備事業の完了と東武東上線新駅の開設による宅地整備進捗、大規模な住宅分譲

・比較的若い世代の転入、子育て家庭の急増による子育て環境の充実に対するニーズの高まり

・家庭における教育関連費について、その経済的支援の観点から、町独自の取り組みが可能

・最も効果的な支援策

・町の子育て環境の向上のために、町民が最も望む施策を町民目線で検討

２．　給食費無償化導入への取り組み

「子育て家庭への経済的支援」の施策として、町の第４次総合振興計画に位置付け　２０１１年度の新規重点事業

・２０１１年　小中学生と幼稚園・保育園の給食費無償化
より多くの子育て家庭が可能な限り、平等・公平に支援が受けられるように

・２０２２年　教育委員会で支給していた町外幼稚園就園児童の給食費を福祉課から支給
認定外保育施設に就園する児童へも給食費支給
多様化する保育環境に合わせて補助

３．　具体的内容

（1）無償化の対象範囲

① 町立幼稚園、小・中学校に通う園児・児童・生徒の給食費
② 上記以外の小・中学校に通う児童・生徒の給食費（私立・公立を問わない）
③ 上記以外の幼稚園等に通う園児の給食費（私立・公立を問わない）
④ 保育園（公立保育所、認可保育所、認可外保育所等）に通う園児の給食費等
（0～2歳児は除く）　※ただし、町内に公立保育所は、ありません

※①、②は、教育委員会事務局、③、④は福祉課にて所管しています。

（2）無償化の条件

①対象となる園児・児童・生徒が滑川町に住所を有していること
②対象となる園児・児童・生徒の保護者について、所得額や町税等の町債務に対する滞納状況は、勘案しない。（保護者に対する要件は設定しない）

（3）無償化の方法

① 町立の幼稚園、小・中学校の給食費
　→保護者の免除申請に基づき、給食費を徴収免除する。
② ③ 上記以外の小・中学校及び幼稚園等の給食費
　→実際の給食費相当額を補助金とし交付（保護者の申請による）
④ 保育園の園児の給食費
　→実際の給食費相当額を補助金として交付（保護者の申請による。施設の長による代理請求、代理受納も可）

4．　給食費無償化に係る事業経費

○事業経費（町負担額等）の推移（幼稚園、小中学校）　（単位 円）

年度	歳入	歳出			
平成22年度（1,712人）	調定済額	支出済額			
		食材料費	加工運搬費		
	67,754,684	72,201,735	60,769,007		
平成23年度（1,821人）	減免見込額	支出済額			
		食材料費	加工運搬費	補助金交付額	
	72,266,892	81,209,103	63,897,571	115人	3,619,340
令和元年度（2,069人）	減免見込額	支出済額			
		食材料費	加工運搬費	補助金交付額	
	92,360,550	93,513,706	76,768,222	121人	3,557,086
令和2年度（2,019人）	減免見込額	支出済額			
		食材料費	加工運搬費	補助金交付額	
	90,485,350	90,191,874	74,732,849	144人	4,084,313
令和3年度（1,983人）	減免見込額	支出済額			
		食材料費	加工運搬費	補助金交付額	
	89,645,450	101,335,785	85,593,372	138人	4,060,359
令和4年度（1,992人）	減免見込額	支出済額			
		食材料費	加工運搬費	補助金交付額	
	90,139,600	105,750,359	85,401,401	34人	1,344,285
令和5年度（1,992人）	減免見込額	支出見込額			
		食材料費	加工運搬費	補助金交付額	
	91,231,650	114,650,000	93,234,000	39人	1,743,000

○保育園等給食費補助金支出額

区分	町内認可保育所	人数	町外保育所	人数	認可外保育所	人数	町外幼稚園	人数
令和元年度	10,010,000円	291人	900,000円	36人				
令和2年度	14,144,000円	308人	1,228,000円	33人				
令和3年度	17,773,000円	353人	956,000円	25人				
令和4年度	17,264,000円	353人	1,118,000円	24人	201,000円	4人	2,276,000円	93人
令和5年度	19,710,000円	365人	1,215,000円	23人	324,000円	6人	2,240,000円	83人

※令和元年～令和4年度の補助金額は決算額。令和5年度は見込額。

5．　給食費無償化導入の成果

・多くの保護者からの高い支持
・町民目線からスタートした子育て支援策
・結果として町外の方にも目を向けた施策に繋がっている
・人口流入による人口の増加や出生率の向上の要因
・現在の町の活性化にも大きく寄与
・貧困家庭支援　給食費滞納に対する後ろめたさ無くなる
・「自分たちの給食を町全体で支えてもらっていること」「働くことの大切さや納税の意義」「食育の観点から食事、食材のありがたさを考えること」などの指導・教育を実践
・徴収業務、滞納整理事務の軽減

6．　今後の課題

・近年の物価高騰による給食食材の価格高騰
・事業予算の確保が継続していく上での鍵
・町を挙げての行財政改革、経費節減、事務事業の合理化
・機会あるごとに学校を通して、保護者、子どもたちに施策の趣旨・理念を伝えていくことが不可欠
・「平等・公平」の理念を崩さず、今後も継続

5　矢板市への展望

議員になって最初に一般質問したのが「給食費の無償化」であった。当時の矢板市は「子育て環境日本一！」を謳っていたにもかかわらず、採用されなかった。当時、人口も矢板市と同規模であった相生市は、給食費無償化他、「七つの鍵」施策によって、産婦人科が市内に無いにもかかわらず、子育て支援に成功し、子育て世代の流入、人口増加を達成していた。

滑川町で成果として挙げているように「給食費無償化」においては、貧困家庭の物的精神的支援、食育、故郷愛の醸成から子育て世帯の定住促進、少子化対策まで幅広い効果が立証されている。

矢板市は、現在３ヶ月分の給食費無償化、地産地消などを実践しているが、それらが、現在の移住・定住促進のみならず、成長後の市民による将来の定住促進にも繋がる素晴らしい施策と言えるだろう。今後も継続、拡大を期待したい。

研修報告書No. 5

議員名（　髙　瀬　　由　子　）

1　期　日　　２０２４年２月２日

2　場　所　　千葉県鋸南町道の駅

3　視察テーマ　　「廃校利用：道の駅保田小学校」

保田小学校校長　大塚克也 氏

4　視察研修事項

（1）　鋸南町のアウトソーシング

人口　約６９００人

「高齢化最先端のまち」高齢化率約４５％(矢板市３３％)

子供　平成初期約８０人から現在３０人未満

・「花観光でまちおこし」河津桜、スイセンで年間８０～９０万人来訪

・廃校利用　国の過疎債にて１２億円(７５％返還義務無し)

（2）　保田小学校の理念「守る、育てる、伝える　里山広場」

・「休まない学校」　学校の毎日を再現

ラジオ体操、校歌斉唱、給食、国旗掲揚

・「学校というノスタルジー」

・町民の活躍の場

・産官学連携　５つの大学の学生の提案重視

（3）　施設概要

・「まちのコンシュルジュ」

鋸南町の観光情報(飲食店、体験、ガイド、イベント)

近隣観光情報

鋸南町の生活情報

交通情報、天気情報

宿泊・温浴施設、公共施設の受付・フロント

・「こどもひろば」

親子で楽しめる遊び場

ジャングルジムや遊具

・「まちの縁側」

旧校舎の廊下を利用したロングリビングスペース

イベント時に活用される多目的スペース

夜間は宿泊者専用スペース

・「里の原っぱ」

旧校舎棟の前面　鋸南町の里山をイメージした原っぱ

緑豊かな自然と青空の下、四季折々の花が咲き、自然に触れ合える憩いの場

・「学びの宿」

教室の雰囲気を極力残したデザイン

畳ベッド、個室と団体合宿用の大部屋

・「みんなの家庭科室」

鋸南町の特産品を活用した加工品開発や体験教室、理科教室

・「まちのギャラリー(アートギャラリー)」

写真、ダンス等の稽古、各種サークル活動、ミニコンサート

・「鋸南楽市」

旧体育館をリノベーションした大きなマルシェ

鋸南町でとれた新鮮な野菜や色とりどりの花を安価に販売

・「里山食堂」

昔懐かしい給食メニュー

・「里の小湯」

くつろいだ雰囲気の中で日帰り入浴

（４）　周知・発信活動

・各種イベントをFacebookにUP　フォロワー４０００人

　みんなで作る保田小開校記念祭、きょなんビッグマルシェ

　保田小ゴールデンウィークフェスタ、文化祭等

・学校新聞

（1）　2023年3月～2023年5月　　道の駅保田小学校新聞『わんぱくよいこ通信』　　春・第4号

学び 育てる 伝える 里山広場

わんぱくよいこ通信

2023春・第4号

発　行：道の駅保田小学校
指定管理者：南房総メンテナンス
〒299-2502　千葉県安房郡鋸南町竜島224
発行日：2023年2月10日
企画・編集：保田小学校開校
協　力：鋸南観光協会
現代書斎研究所

●5月の標語
なかよしつくろうほた小を
さき3組　さとのはな

コーチューの道の駅放浪記④（ウイド村）

わが母校に未来を描く！

ようこそ、都市交流施設・道の駅保田小学校へ！廃校ありがとうございます。開校から7年が過ぎ、振り返ると全国に広がる少子高齢化の波の中、里山の小学校の廃校を利活用する取り組みは全国的な関心を生み出して、今でもお視察や見学の絶えない施設になっています。8年目を迎え、更なる挑戦へ「都市交流施設周辺整備事業」が昨年からスタートいたしました。道の駅業界に精通するOKラボ（大塚志出研究室）室長・道の駅ディレクターで、現在の道の駅保田小学校長（駅長）の大塚志出氏に話を伺いました。

100万人が訪れる観光施設創造へ

約3年前、急激な過疎化が進む町の施策として、都市交流の盛況を表れた五の駅運営事業者住民の声が聞いてきました。道の駅を核に地域再生に挑戦する壮大なプロジェクトです。都心部から1時間半の立地で、廃校を活用した「グランピング」は、ディレクターとしてもこれまで道の駅は、自動車を利用した観光のための休憩地でしたが、ぼくが提案したのは、廃校をテーマパーク化することで、滞留を強調していこうという試みでした。廃校になった小学校に来ていただくには、どうしたら良いのかを模索しました。西いたのが、昭和の懐かしい小学校の再現でした。

営業は朝のラジオ体操から始まり、校歌斉唱と授業が流れてるホー開校です。教室をそのままに生かした宿泊施設やレストラン、特に力を入れたのがここでしか味人の出来ない懐かしいオリジナルの33

子どもたちの声が響く、鋸南の廃校利活用事業を進行中　（イラスト：大塚志出）

（1）　2023年8月～11月　　道の駅保田小学校新聞『わんぱくよいこ通信』　　夏秋・第6号

学び 育てる 伝える 里山広場

わんぱくよいこ通信

2023夏秋・第6号

発　行：道の駅保田小学校
指定管理者：南房総メンテナンス
〒299-2502　千葉県安房郡鋸南町竜島224
TEL0470-55-3330 fax0470-55-3333
発行日：2023年8月20日
企画・編集：保田小学校開校
協　力：鋸南町
現代書斎研究所

●9月の標語
友だちつくろう　この駅で
6年1組　里山　涼一

道の駅保田小附属ようちえんが開園へ

さらにノスタルジックで楽しい駅へ

保田小学校長　中村　靖

道の駅保田小学校へ（廃校ありがとうございます。本校は、空ひの道の駅として里山の自然環境や文化を学ぶ道の駅です。お立ち寄りいただいた皆様が、ここで地域町歩き行事の大切さや千年の名称や季節の旬の野菜などを見て触れて学べていただけたらたいへんうれしいことです。

本校は、2014年に過疎化で廃校になった小学校を、の子ども園として、市町交流施設のための道の駅として生まれ変わります。全国初になり、廃校には珍しい、全国の学校を教育の、その有名ホテル学校を教育の、モデルケースとしてゲートは、全国の注目を集める施設になっています。

さて、開校から6年目となり、わかりやすくて、利用されるお客様が人増に増加し、駅前の廃墟化を防ぐ為の、廃校の利活用の、モデルケースとして、全国の注目を集めています。都市と地方を結ぶ交流施設として、ふるさとプロジェクトがここから始まります。セカンドステージの保田小学校は、新年度を目指して、地域や子どもたちができるコミュニティの生まれる、より質の高いこの校舎を、子育て、教育の拠点として、皆様のご支援を、お待ちしていますので、どうぞよろしくお願いします。未来を担う道の駅として、皆様のお役に立てるよう、皆様方をお待ちしています。

新しかった、幼稚園時代、小学校時代を思い出の場として、皆様いただけるよう、こんなかいもとっかまろしく、お願い申し上げます。

ここがイチオシ！まちのコンシェルジュ⑥

浮世絵の始祖、菱川師宣の生誕地へ！

わんぱくよいこの皆さんの大好きなアニメや漫画文化のルーツって何かご存知ですか。写実や北斎が花開かせた浮世絵であることはご存知だと思います。今では、世界中が認める漫画やアニメの源流が、

（５）　廃校ビジネス

全国約２０００施設

廃校前に検討委員会設置　老朽化の前に次のことを考える

計画的に進め、早くオープン

５　矢板市への展望

「道の駅保田小学校」は日本における廃校利用成功の最たる例であろう。その要因は、校長の発想力、発信力、マネージメント力に熱意、人脈が掛け合わされたことは勿論、インターチェンジ直近の平地と言った立地条件の良さも否めない。最近は隣接地に保育園廃園を利用した施設もオープンしている。

矢板市の廃校は、企業誘致、福祉施設や観光施設として利用されている。矢板の交通の利便性を鑑みれば、道の駅も旧長井小学校も無限の可能性に満ちていることになる。

道の駅保田小学校の成功は、観光や物品販売、食事の提供に終始せず、鋸南町内外の観光情報(飲食店、体験、ガイド、イベント)や町の生活情報を案内するコンシュルジュの存在、交通情報、天気情報などを網羅して案内可能な大型モニターや情報端末の設置によるところも大きい。最近はAIや遠隔操作による案内が可能なので、「デジタル宣言」を行った矢板市としては、まずは文化スポーツ複合施設の設備を有効活用しながら「やいた未来」にも導入し、各施設での案内・連携を充実させ、費用対効果を高める取り組みが望まれる。それらを「Discover　Yaita」「やいたぶ」他にUPすると共に、「矢板応援大使」や市民に応援を依頼することで相乗効果を望めるであろう。

一昨年提案した「応援大使の名刺活用」に秘書広報課が取り組んでいる。名刺には、矢板市のおすすめスポット・グルメ情報が記載され、施設優待や割引券を兼ねている。現在は、山の駅たかはら、城の湯温泉センター、道の駅やいた、矢板武記念館の四ヶ所のみの特典だが、4月オープンの、泉きずな館、文化スポーツ複合施設、城の湯温泉センター宿泊所、山縣有朋記念館等の特典も加え、その周知を図っていただきたい。

また「応援大使」や「コンシェルジュ」も広く市民から募り、民間活力による「まち全体でおもてなし」「まち全体で発信」の体制を早急に構築することで、廃校利用、道の駅利用を最小限の予算で効率よく進められるであろう。